

両手を広げて平和を祈る



羽地中学校
学校だより 124号
せいりゅうおおかわ
H30.11.8

1年生は先月30日(火)、総合的な学習の時間のまとめ取りをして、「南部戦跡フィールドワーク」を実施しました。

唯一の地上戦となった沖繩戦の中でも最後の激戦地となった南部・摩文仁の丘平和祈念公園を巡り、平和を考える総合学習です。

1年生一行は、森根さん達、平和ガイド三名の案内で、「とどろきのガマ」「沖繩師範健児之塔」「平和の礎」「ひめゆり平和祈念資料館」「韓国人慰霊の塔」を巡りました。

健児之塔では、「勉強しなくては出来なかった。もっと勉強しなくては授業を受けたかった。」との言葉が心に残りました。

「とどろきのガマ」では、実際にガマの中に入って、すべての明かりを消し、暗闇体験をして、当時のガマ生活の怖さを少し体験出来たのではないのでしょうか。

戦争体験者は口をそろえて言っていたことは、「あなた方が次の戦争体験者にならないことを祈っています。」という言葉が強烈でした。

勉強が出来ると友達と遊べる。毎日、ご飯が食べられる。そんな当たり前のことが出来なかった時代がある。これからも当たり前のことがずっと続くということは、私たち一人一人の考えや思いが重要であることだろう。

恒久平和への願いと不戦の誓いを立て、人類のあらゆる英知を集めて、戦争で紛争を解決しない手段を選択をしていかなければならない。この学習が自分の人生をどう生きるかを考えるきっかけとなれば幸いです。



南部戦跡フィールドワーク

1年総合的な学習の時間 10月30日(火)



韓国人慰霊の塔前で



ひめゆり平和祈念資料館前で



最終から73年が経ち、世界では未だに紛争が絶えませんが、僕たちは平和な毎日を送っています。

僕たちのおじいちゃん、おばあちゃん、ひいおじいちゃんやひいおばあちゃん達の時代は、戦争という残酷で恐ろしいものがありました。

あの頃は、国のため、天皇のために戦争に行くという教育がありました。今、考えると恐ろしい教育だとも思います。戦争の辛さは体験した人しか分からないだろうと思います。しかし、ここではその残酷さ、悲しさ、苦しさは、私にはとても伝わってきません。平和学習で学んだ平和の素人にはとても命の尊さを知り、二度と過ちを起こさないことを誓います。

三組 R・Yさん



平和の広場「平和の火」の前で



平和の礎を背景に平和宣言をするRさん



とどろきのガマの入り口で